

STAGE+を楽しむ(185)(HP 収載)
—ボムソリのヴェルビエ音楽祭—

1. 始めに

前報(184)に引き続き、STAGE+のボムソリのヴェルビエ音楽祭の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回はボムソリのヴェルビエ音楽祭の演奏を選びました。

ボムソリがジュリアン・クエンティンのピアノでヴェルビエ音楽祭デビュー
ヴェルビエ 2024年

現代のヴァイオリン・シーン期待のボムソリが、数々の音楽祭に出演し室内楽にも定評のあるパリ生まれの実力派ジュリアン・クエンティンのピアノと共演し、ヴェルビエからお届けします。ラインナップの中心は彼女のデビュー・アルバム(※共演したラファウ・ブレハッチにとって初めての室内楽録音盤としても話題を呼んだ)にも収録されたドビュッシー、シマノフスキ、フォーレの傑作ヴァイオリン・ソナタ。プログラムの掉尾を飾る、神秘的な「夜想曲」と激しい舞曲「タランテラ」からなる印象派時代のシマノフスキが新境地を開いた会心作もお聴き逃しなく。

ソリスト:

キム・ボムソリ (ヴァイオリン)、ジュリアン・クエンティン (ピアノ)

曲目:

クロード・ドビュッシー ヴァイオリン・ソナタト短調 CD 148

カロール・シマノフスキ ヴァイオリン・ソナタニ短調 op. 9

ガブリエル・フォーレ ヴァイオリン・ソナタ第1番イ長調 op. 13

カロール・シマノフスキ 夜想曲とタランテラ op. 28



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

ドビュッシーのヴァイオリン・ソナタは、詩情の漂う曲です。

シマノフスキのヴァイオリン・ソナタは、東欧らしいメランコリックな抒情性を湛えた曲です。

フォーレのヴァイオリン・ソナタ第1番は、これもフランスらしい詩情の漂う曲で、激情的な速いパッセージもあります。

シマノフスキの夜想曲とタランテラは、神秘的で暗い表情でありながら、舞曲らしい激しい動きもあります。

ボムソリは、フランス→ポーランド→フランス→ポーランドの曲に合わせ、表情も変えながら、速いパッセージも安定した技量でこなし、細かいヴィブラートで透明度の高い高音もこなしています。クエンティンのピアノも美しい響きを聴かせます。

アンコール曲は、次の2曲で、バツィエヴィチもショパンもポーランドの曲であり、ショパンの夜想曲第20番の編曲版は初めて聴きました。

グラジナ・バツィエヴィチ オベレック第1番

フレデリック・ショパン 夜想曲第20番嬰ハ短調 遺作

(ナタン・ミルシテインによる編曲版)



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、フランス→ポーランド→フランス→ポーランドと代る曲の表情を描きだしています。

以上